

令和6年度全国学力・学習状況調査における
北九州市立 西門司 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

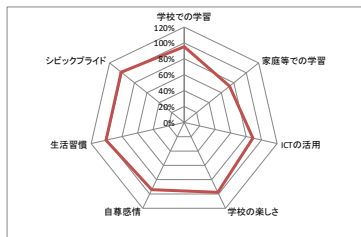
- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

- (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国・県平均と比較してもわずかに下回っている。 自分の考えが伝わるように表現する力に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	物語文における、登場人物の相互関係や心情などの描写を考えながら読むことができる問題。	
	努力が必要な問題	漢字を正しく読む、書くなどする問題。	
算数	全体的な傾向や特徴など	全国・県平均と比較すると学習に関する関心が低い傾向。 図形に関する知識や資料からデータを読み解く力の定着が課題である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	問題文を読み、求められている答えを選択肢の中から選んで答える問題。	
	努力が必要な問題	条件にあてはまる言葉や数を用いて、自分の考えを記述する問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
○学校での学習に関する問いに対して 学習に対する肯定的な回答している児童が少なく課題が見られた。中でも、「自分の考えがうまくつたわるように、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表する」という問いに対して課題が見られた。基礎・基本的な学力の定着を図るとともに、自分の考えを明確にして相手に伝わるような児童の育成を目指す。
○家庭等での学習に関する問いに対して 肯定的に回答している児童が少なく、課題が見られた。学習に対する主体的な力を高めるためにも、学校と家庭とが連携していくことが必要である。宿題以外にも、自分の興味や関心がある内容、もっと力を高めたい学習において自習学習を進めていく。加えて、自主学習の取り組み方も紹介する。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

○基礎・基本的なことの着実な定着を目指して、朝の学習時間、ICTを活用したドリルアプリを活用した取組を全校で取り組んでいく。
--

- ② 家庭生活習慣等に関する取組

○全学年、自主学習の取組を行う。家庭学習を定着させることが課題である。学校でも、家庭学習においても、基礎学力が定着するよう毎日一人一人でできる内容のものをとする。
